

4 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気はやや弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方修正、 は下方修正)

前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 16 年 11 月)	今回 (平成 17 年 2 月)	
鉱工業生産	おおむね横ばい	緩やかに増加	
個人消費	おおむね横ばい	やや弱含み	
住宅建設	増加	減少	
雇用	依然として厳しい	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きがみられる	

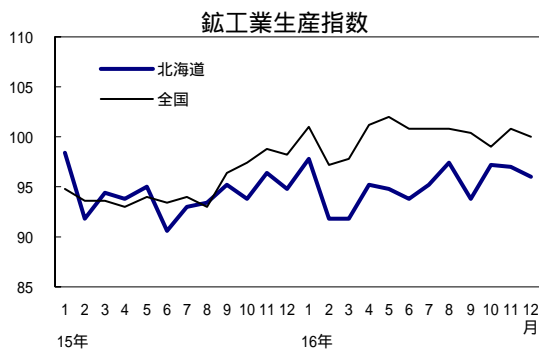
1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産は前年並みとなり、水産業は前年を下回っている。

生乳生産は、牛乳等向けが増加した一方、乳製品向けが減少したことから、総量では、928,352t と前年比で 2.3% 減と前年並みとなった。水産業 (主要 11 港主要品目) は、この時期の主力であるさんまは前年を上回ったが、すけとうだらが前年を大きく下回ったことなどから、水揚量は前年を下回っている。

(2) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

食料品・たばこは、10 月に冷凍水産物が伸びたことなどから、2 四半期連続で増加となった。パルプ・紙は、チラシ、カタログなどに使われる印刷用紙の増加などにより、2 四半期連続でプラスとなった。電気機械は、期初は横ばい圏内の動きだったが、12 月に無線通信装置が大きく減少したことから、期を通じてみれば前期比マイナスに転じた。窯業・土石は、10 月にセメントやガラスウールなどで高い伸びとなったことから、前期比でプラスに転じた。金属製品は、食缶、アルミ缶体、橋りょうなどの増加により、3 四半期連続でプラスとなった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
食料品・たばこ	26.5	0.7	3.4	3.0	4.7
パルプ・紙	12.1	2.5	1.2	1.3	1.7
電気機械	9.5	4.7	8.3	8.4	1.7
窯業・土石	9.0	3.3	4.1	3.1	0.7
金属製品	9.0	0.1	7.9	11.1	22.5
鉱工業	100.0	1.0	1.4	1.6	2.9

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 15 業種。

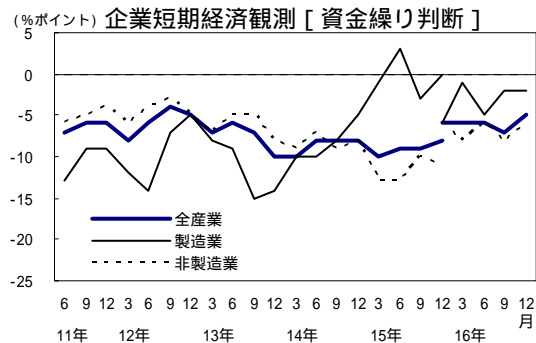
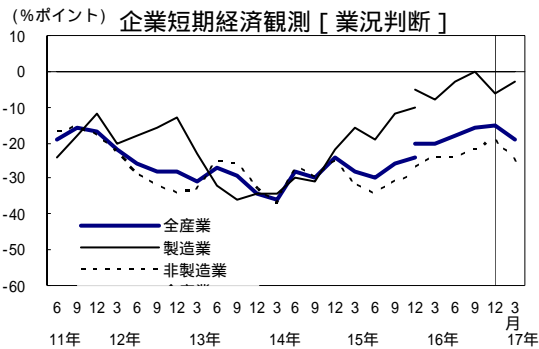
2. 10~12 月期は速報値。

(備考) 1. 12 年 = 100、季節調整値。

2. 平成 16 年 12 月の北海道は速報値。

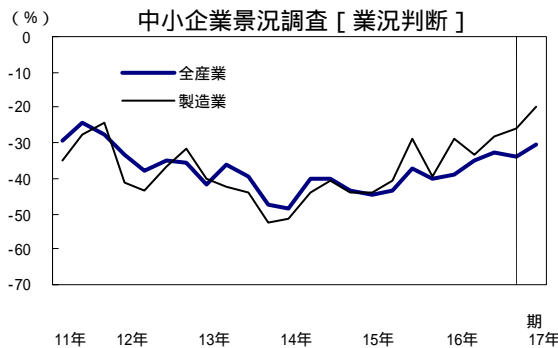
(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなり、資金繰り判断は「苦しい」超幅が縮小している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年3月は予測。15年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

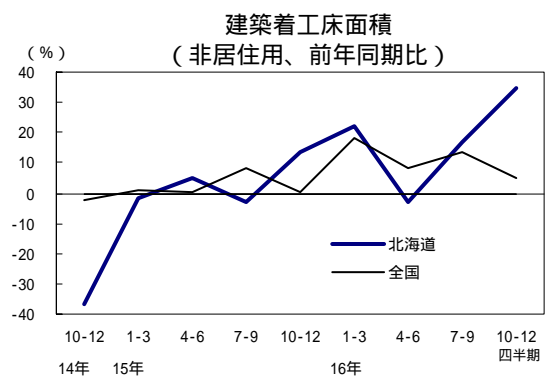
「原料価格の高騰に伴い、製品価格を値上げしたところ、年末需要時と比べて受注量が減少している(食料品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(4) 16年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(12月調査)]

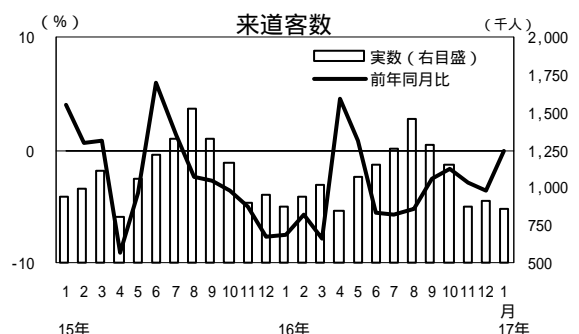
	(前年度比、%)	
	15年度実績	16年度計画
全産業	14.9	10.8(9.3)
製造業	16.7	31.0(17.4)
非製造業	14.0	1.8(5.2)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光はやや減少している。

来道客数を見ると、主力である東京方面に加え、大阪方面からの来道客数が引き続き減少しているが、前年の落ち込みの反動もあり、減少幅は縮小してきている。なお、第56回さっぽろ雪まつりの延べ入場者数は219万1千人となり、前年比で0.6%増加した。



(備考)北海道観光連盟調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

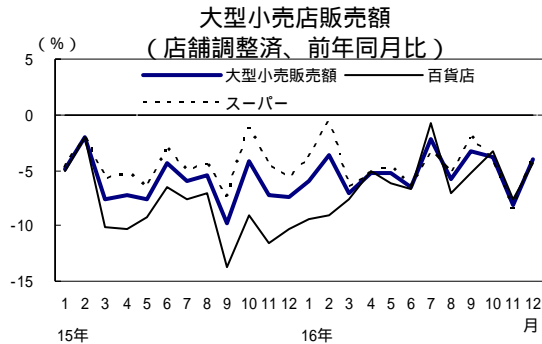
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は身の回り品が底固く推移し、衣料品もマイナス幅を縮小したことから、全体では3.2%減となった。しかし、11月は紳士服、婦人服がともに前年比で2けたの減となったことから衣料品が大きく減少し、全体でもマイナス幅が拡大した。12月は飲食料品は健闘したものの、引き続き衣料品が振るわず、全体でも前年割れが続いた。

スーパーは、主力の飲食料品が10月に前年比でマイナスに転じてその後も減少が続き、衣料品も9月から12月まで前年比で2けたの大幅な減少が続いたことから、前年を下回っている。

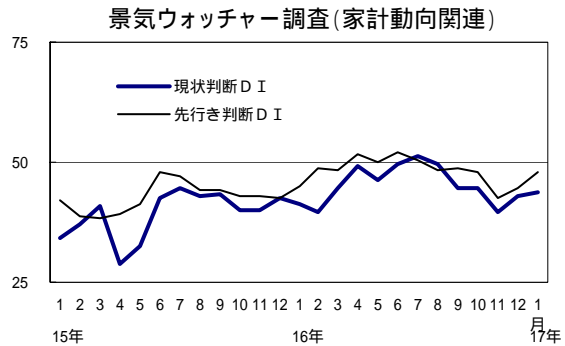
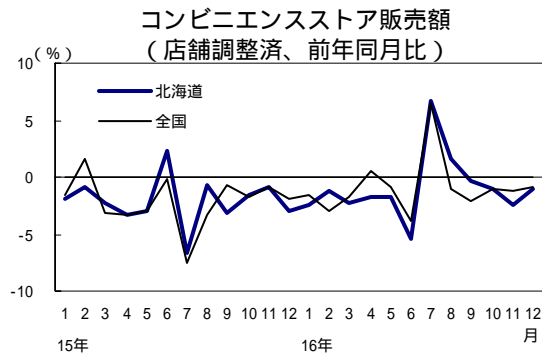
景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「初売りで防寒衣料品のバーゲンを実施したが、客の反応が良く、中旬までは売上102%前後で推移した。しかし、後半に入ると息切れとなり、結果として前年比100%で終わった(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	16年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	5.7	5.7	3.8	5.2
百貨店	8.6	6.0	4.2	5.0
スーパー	3.9	5.5	3.6	5.4
コンビニ	1.9	3.1	2.6	1.5
景気ウォッチャー	41.8	48.4	48.4	42.4

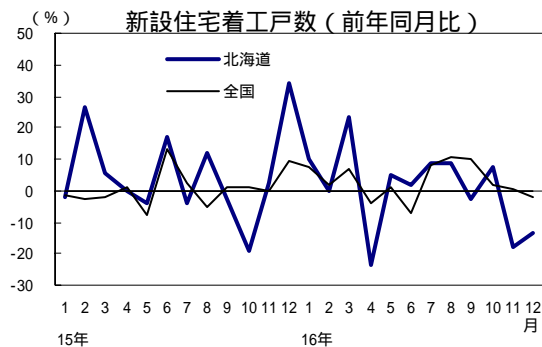
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると前年度を下回っている。

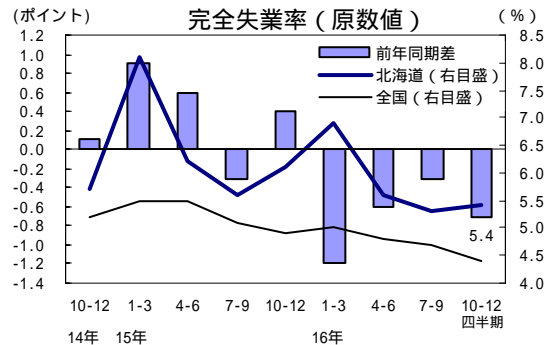
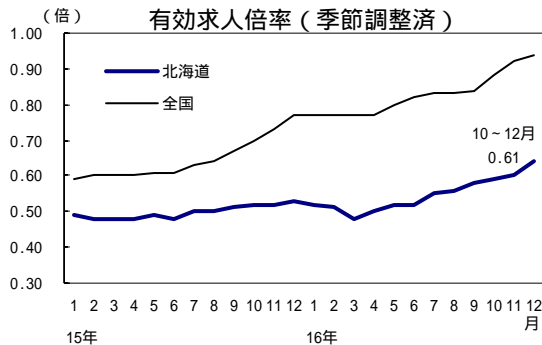


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（1月）[雇用関連（現状）]

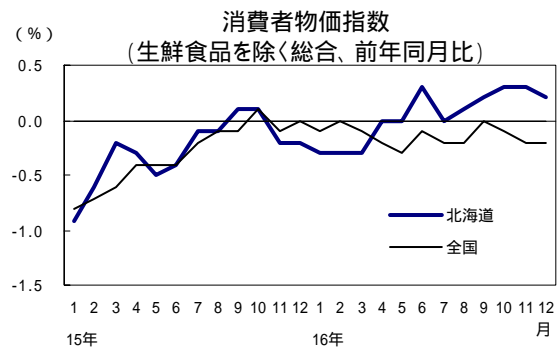
「サービス業の医療・社会福祉関係の求人が伸びているが、景気回復に大きな影響のある製造業は減少を続けており、依然として厳しい状況にある（職業安定所）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額が増加している。

(3) 消費者物価指数は上昇している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	16年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	17年1月
倒産件数	152	163	110	136	54
(前年比)	29.0	14.7	24.1	0.7	10.2
負債総額	445	433	227	510	207
(前年比)	59.7	83.4	49.4	52.8	29.3



景気ウォッチャー調査（1月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・今年の冬はスキーツアーが非常に少なくなっている。団体客も約2割減っている。天候不順による去年の減少を更に下回る厳しい状況となっている（一般小売店[土産]）

<先行き>

・良くなる材料が見当たらない。12月中旬以降、消費者の動向が急激に変わっており、先行きは不透明である（家電量販店）

景気ウォッチャー調査（合計）

